

祝！霧島ジオパーク認定1周年

南九州愛郷フェスタ

霧島山一帯が日本ジオパークに認定されて1周年を記念した南九州愛郷フェスタが9月17日・18日の2日間、総合文化ホールで開催されました。霧島ジオパークをPRしようと周辺4地域が参加し、牛や豚、鶏などの地元の特産品を使った丼コンテストを実施。黒木郁乃さん（沖水小6年）は「いろいろな地域の丼を食べて、1位を決めたい」と笑顔でほおぼっていました。そのほか、前知事の東国原英夫さんと市長との対談や霧島周辺を巡るツアーなども行われ、多くの人でにぎわいました。



星降る町の天文台愛され続け20年

たちばな天文台20周年

10月2日、開設20周年を迎えたたちばな天文台の愛称命名式とバリアフリーに対応した望遠鏡の披露が行われました。天文に誘う施設にとの思いを込めて付けられた愛称は「星の燈台」。式典では葦部樹生台長らが真新しい木の看板を掲げ、天文台の新たな門出を祝いました。また、合わせて公開された望遠鏡は口径40センチのアメリカ製、車いすのままでも見られるようにとリフトを備えたもの。箕部台長は「多くの人が利用しやすい施設になった。たくさんの人に来てほしい」と話していました。



観光レディーも舌鼓

都城焼肉カーニバル

日本一の肉のまち都城を県内外にアピールしようと焼肉カーニバルが10月8日、観音池公園で開催されました。家族連れなど約1万6,000人が来場。11時の開場と同時に県内産の牛、豚、鶏を炭火で焼く食欲をそそる匂いが立ちこめていました。山下由紀恵さん（祝吉小1年）は「いろいろ食べたけど、特に牛肉がおいしい」と笑顔で話していました。また、ステージでは、市をPRする新しい観光レディーがお披露目されたほか、吹奏楽の演奏や踊りの披露もあり、会場を盛り上げていました。



人形をめで、茶を楽しむひととき

重陽の節句と後のひな展

旧後藤商家交流資料館で9月23日から10月16日まで、重陽の節句と後のひな展が開催されました。菊の開花のこの時期、桃の節句で飾ったひな人形の虫干しと合わせて、同施設などが収蔵する貴重な人形を展示。10月8日には、地元の茶道教室によるお茶会も行われました。来館者らは、帯で作られた創作びななどを見たり、茶の振る舞いを楽しんだりしていました。湯地ひかりさん（祝吉小4年）は「お茶を習っているのですが、お茶をたてる人のお手前がとても参考になった」と目を輝かせていました。



人の風景



毎週月曜から金曜の午後3時30分 MRTラジオで好評放送中！
みやこのじょうドキドキナビ パーソナリティ

谷沢^{やざわ} 直美さん（右）
平山 淳子さん（左）

（ ） んにちは！ の明るい声で、
軽快に始まるラジオ番組「みやこのじょうドキドキナビ」。そのパーソナリティ（司会）を務めるのが、谷沢直美さん（大王町）と平山淳子さん（高城町）です。

みやこのじょうドキドキナビは、最新の情報を市民に伝える市政情報番組。平成4年に放送を始めた「ウエルネス都城」が、平成18年に現在の名称に変わり、市内で行われるイベント紹介などを中心に、都城の「今」を伝えていきます。

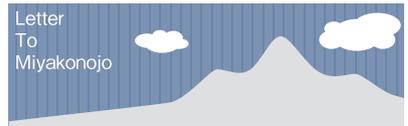
同番組内でパーソナリティの谷沢さんと平山さんは、毎回ゲストで登場するイベントなどの関係者を交え、その内容を聴く人に関わりやすく伝えています。

谷沢さんは、千葉県出身。大学卒業後、MRTのアナウンサーとして、報道番組などを経験。いったん宮崎を離れ、ふるさとの千葉や東京でラジオの音楽番組などを中心に活躍していましたが、本市出身のご主人と出会い、結婚を

機に都城で暮らすことに。「遠い千葉から二度も宮崎に来ることになるなんて、やっぱり縁があったんですね」と話す谷沢さん。

一方の平山さんは高城町の出身。大学進学でふるさとを離れ、卒業後は県外の製薬会社に就職しました。しかし、好奇心旺盛な性格の平山さんは、第1子の出産をきっかけに、それまで趣味として行っていたイベント司会の腕前を生かそうとMRTのテレビレポーター試験に挑戦。見事合格を果たして以降、主婦業との両立で慌ただしい毎日を過ごしています。

二人は共に、スムーズに番組を進行させるため、放送前の打ち合わせでは、ゲストの緊張をほぐすことに心を砕いています。「放送中の発言する割合は、ゲストが7でパーソナリティは3。うまく話を引き出すことで、聴く人がゲストやイベントをより身近に感じることができると、司会の「こつ」を話していました。



Letter To Miyakononojo

都城讃歌

【ヴァイオリンとともに】



みか 廣瀬 心香さん

◎プロフィール

1988年生まれ

3歳よりヴァイオリンを始める。桐朋学園高校を経て2011年桐朋学園大学を首席卒業。皇居での御前演奏を行う予定。10月よりベルリン芸術大学に留学。ノラ・チャスティン氏に師事。これまでに、永野真一、木野雅之、景山誠治、加藤知子の各氏に師事。

中学卒業と同時に都城を離れて丸7年が過ぎました。ヴァイオリンで高校、大学と桐朋学園で学び、今春首席で卒業することが出来ました。4月から単身ヨーロッパに渡り受験を経てベルリン芸術大学に入学が決まりました。

その後ドイツに住むためのビザを取ったりアパートを決めたりして、やっと9月に3週間ほど帰国することができ、都城にも10日間ほど帰ることが出来ました。

久しぶりの都城はやつぱりホッとします。美味しいものを食べたり温泉に行ったりと短いながらも楽しい時間を過ごしました。

ヴァイオリンは3歳からずっと弾いています。もう身体の一部のようです。大学卒業後のドイツ留学を念頭に語学を習ったり準備を進めてきましたので、ベルリン芸大に入学が決まり本当に満足しています。

10月から大学が始まります。ベルリンはドイツでも北にあるので冬は本当に寒いです。夏でも吐く息が白くなるくらい寒い日があります。それに食べ物やファッションもちょっと残念です。とはいえクラシックを学ぶには最高の環境です。ベルリンフィルのホールもすぐ近くです。ベルリンでヴァイオリンとともに充実した日々を過ごしたいと思えます。

学校へ行こう

都城きりしま支援学校
南横市町7097番地2 ☎25-1878



◎学校のシンボル

「希望の像」

都城養護学校時代に創立10周年を迎え玄関の横に作られました。毎朝、児童・生徒の登下校の安全を見守っています。

「学校が楽しい理由」

都城きりしま支援学校生徒会

皆さん初めまして。今回は、学校が楽しい理由を書くことにします。都城きりしま支援学校は、小学部59人、中学部56人、高等部80人、総勢195人のいろいろな個性を持った児童や生徒が集まっている学校です。

高等部では、作業学習というものがあって紙工・木工・農業・縫製・環境・窯業・クリーニンクの7つの作業班があります。紙工班では、牛乳パックを使って紙すきをします。木工班は、木材を使い椅子などを作ります。農業班は、野菜を育て販売をし

ます。縫製班は、さわりなどを使い縫い物をします。環境班は、草取りや掃除をします。窯業班は、粘土を型取りそれを焼いて皿などを作ります。クリーニンク班は、ワイシャツなどを洗ったり、アイロンをかけたります。これらは将来、私たちが仕事に就くのに役に立ちます。

さらに、友達と一緒に作業をすること、友達との親睦を深めることもできます。みんな作業をするのはものすごく楽しいことなんです！年に一度の「都きり祭」も「運動会」も、一人一人が一生懸命、練習して真剣になれるから楽しいんです。これからも、都城きりしま支援学校をよろしくお願ひします。